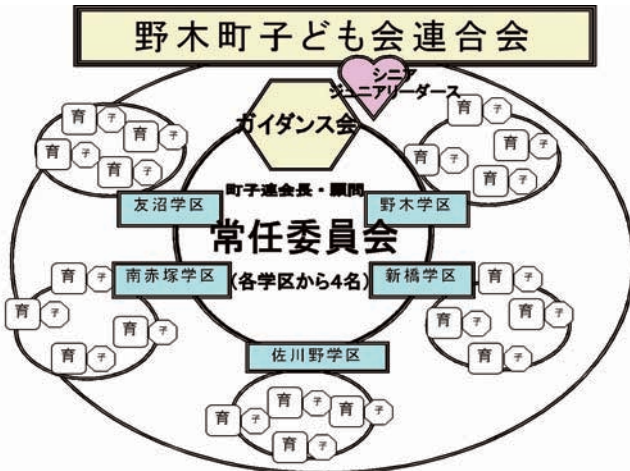


大人が学び、子どもの主体的な活動に生かす！！

野木町子ども会連合会 (野木町)

スタッフ構成



* ガイダンス会とは指導者の組織です。



野木の「の」を子どもの顔にデザイン化したもの。町の花「ひまわり」を連想させ、連帯と協調、未来への飛躍・発展を象徴したもの。30周年の際、募集し、決定した。

主な活動

- (1) 第1回・2回子ども会リーダー研修会
- (2) 第1回・2回指導者研修会
- (3) 町っ子フェスティバル
- (4) 子ども会議
- (5) 広報誌「町子連だより」(年2回) 発行

立ち上げの経緯

昭和43年5月創立

継続・充実のためのポイント

大人の意識

「次世代を担う子どもたちのために」を大人が真剣に学びあう場を確保し、参加型の研修会や子どもの参画を意識したプログラムを実施することで、楽しく、主体的にかかわること。

子どもも大人も楽しむ

子どもたちの笑顔と笑い声が、大人と子どもの元気の源です。



連携

町事業への協力やジュニアリーダーズクラブ、老人クラブ、読み聞かせボランティアとの連携を進めている。

運営組織

【その1】
役員のかかわり方を3部(事業部・研修部・広報部)にすることにより、一人一人が責任と役割をもつ。

【その2】
新旧の役員の交代時期に、合同の研修会を実施。「子ども会とは何か」「今年度の実践を振り返る」場を設定し、活動がスムーズに継続できるようにする。

課題克服

【その1】
「子どもたちのために」という機運作りをし、役員になったことを良い方向にとらえる。

【その2】
大人の仲間作り、親同士の意見・情報交換、子育て相談などの場としての意識をもってもらう。他の子を見ることも非常に大切であり、自分の子育ての参考にもなる。

【その2】
役員のかかわり方を3部(事業部、研修部、広報部)にわけ、責任感と連帯感をもて、子どもたちとの接点も多くなり、大変さのなかにも喜びや達成感を感じることができる。

予算

会員会費・町補助金 65万

活動例

子ども会リーダー研修会

1回目：宿泊研修

5年生を対象に2泊3日で実施。
すべてグループで協力・相談して行動します。

2回目：わんぱくサミット

事業を子どもたちが企画します。子どもたちから出されたアイデアを各地区子ども会で実施します。



指導者研修会

年2回行う大人を対象にした研修会

今年の第1回テーマ「子ども会育成会を生かして親の教育力（親力）を高めるプログラム～子どもを伸ばすプロ親を目指して～」



町っ子フェスティバル



町内の子どもを対象

町公民館、体育センターを会場に1日レクや手作りコーナーなどで楽しむ。老人クラブ、読み聞かせグループ、ジュニアリーダーズクラブが参加・協力。



大人と子どものすがた

子どもは…

子ども会リーダー研修会 自分たちで考え相談して行動することにより、責任感やグループで協力することの大切さを学びました。また、子ども会事業を自分たちで企画することで、事業に主体的に参加するようになりました。

町っ子フェスティバル 文化祭のような感覚で、それぞれの学区で創意工夫して部屋を飾ったり、催し物を考えたりしています。学区でのまとまりができる事業なので、「うちが一番、子どもたちを楽しませるぞ！」という気持ちで取り組んでいます。

大人は…

指導者研修会 何気ない親の一言が子どもを成長させたり、逆に傷つけてしまう現実をあらためて考える良い機会となったようです。参加者からは、「言い方次第で子どもが変わるのだから日々気をつけてみよう」や「研修でいいヒントをいただきました」などの声が聞かれました。

「子どもも大人も楽しむ」それがあから、貴重な時間をさいてまでも、「次代を担う子どもたち」のために活動を継続できるのではないかと思います。そして、子どもたちの笑顔と笑い声が、今の忙しい私たち大人を癒してくれます。

地域の自然を生かして大人も子どもも楽しむ！

小野寺南小学校休日支援ボランティア（岩舟町）

スタッフ構成

学区地域住民有志と児童の保護者
（現在メンバー 25 名：全員地域住民）

主な活動

- ・ 野外活動
- ・ ものづくり体験活動
- ・ 自然観察活動
- ・ その他、児童の要望を取り入れた活動



立ち上げの経緯

平成 14 年 9 月
学校週 5 日制の実施に伴い、学校側から学区地域住民に対し、休日の子どもの余暇時間を有効活用するための支援ボランティア立ち上げの要請。



当初メンバー：20 名
子どもたちへのボランティア意欲のある方、30 代の現役保護者から P T A 役員 O B、さらに、70 代の高齢者まで幅広い年代で構成される。



平成 15 年 4 月から、年間計画に基づき月 1 回程度の催しを開催。
担当メンバーが作成したイベントのチラシを学校で全児童に配布。参加者の集計も学校にお願いするなど、学校との結びつきは強いが、行政とのかかわりは特にはない。
なお、その後に設立された岩舟町青少年育成町民会議には当会員が多数参加し、町民会議の協力団体（中心メンバー）に位置付けられている。

継続・充実のためのポイント

継続のコツは…？

活動の運営

- ・ 出られる時に出来る人が運営。（会員の負担軽減）
- ・ 会員の得意分野を生かす。
- ・ アンケートをもとに次年度の計画を立案する。

資金

- ・ 学校の運動会で模擬店を出し、収益金を活動資金に充てる。
- ・ 学校の廃品回収の収益金から補助をもらう。
- ・ 受益者負担
- ・ 会費なし

学校の協力

- ・ チラシを全児童に配布
- ・ 参加者の取りまとめ

保険に加入

その他

- ・ 子ども大好き、ボランティア活動大好きなパワフルな中心メンバーが数名いる。
- ・ 規約を作らず、その都度会員同士の自由な話し合いにより、会を運営する。

活動例

平成 18 年度の年間計画

期 日	活 動 内 容
4月22日	学校の裏山で遊ぼう
5月 5日	小野寺をハイキング
5月27日	カエル探検隊
6月24日	カブトムシを探そう（あじさいの挿し木）
7月 8日	ザリガニ釣り
8月19日 ～20日	学校に泊まろう （映画会、肝試し、バルーンアート等）
9月16日	運動会に模擬店
10月14日	タグラグビー
11月11日	そばの収穫とそば打ちをして食べよう
12月16日	クリスマスケーキ作り
1月20日	夜に星の観察
2月17日	科学に挑戦（電気パン、カルメ焼き）
	年間を通して水棲生物の観察

活動の様子

①学校の裏山で遊ぼう

学校の裏山が子どもたちの秘密基地になりました。のぼって、ゆれて、すべって、ころんで、楽しい土曜日でした。



③カブトムシを探そう&あじさいの挿し木

学校にあじさいを増やすためにあじさいの挿し木をしました。挿し木の説明を聞いてからプランターにたくさん植えました。根がつくのが楽しみです。その後、古江さんのお寺に行って、カブトムシの幼虫を探しました。老木の下からたくさんのお虫が見つかりました。家に持ち帰って大切に育てます。



②カエル探検隊

南小休日ボランティアでカエル探検隊を結成し、23名の子どもたちが、近くの水田でトノサマガエルをたくさん発見しました。手のひらに乗せるとやわらかくて、しめっていて……楽しかったです。



④ザリガニ釣り

参加者は、大人を含めると約30名。ザリガニは、今年は少なく、最高15匹、平均で7～8匹釣れました。赤く大きなつめのザリガニがバケツの中でいっぱいでした。

大人と子どものすがた

大人は…

Kさんは、結婚後県外に居住し、夫の定年後実家に戻ってきたが、長年地元を離れていたため知り合いが少なく、このボランティアの話があった時に仲間づくりのために加入しました。参加して知り合いが増え、さらに他の団体との繋がりも出来てたいへん喜んでます。



子どもは…

自分の住んでいる地区のすばらしさを体で感じ取っています。毎回の活動を心待ちにしています。また、身近な自然とのふれあいや異年齢の活動、大人たちとのかかわりを通して様々なことを学んでいます。

公民館ボランティア受講生が子どもの学びをつくる

国府地区公民館サポーター倶楽部「よっしゃあ！」

(栃木市：国府地区)

スタッフ構成

公民館サポートボランティアセミナー受講生 20名

主な活動

- (1) 学級講座（主に少年少女対象の「わくわく学級」）
- (2) 公民館まつりのサポート
- (3) 自主事業（講座事前学習会等）

平成 15 年度－バームクーヘンづくり・そば打ち体験教室
平成 16 年度－ペットボトル工作・竹鉄砲工作・もちつき・クリスマスケーキづくり
平成 17 年度－豆腐づくり・よさこい・割りばし工作・しめ縄づくり・そば打ち等



立ち上げの経緯

平成 14 年度「家庭と地域の教育力活性化事業」の一環として「公民館サポートボランティアセミナー」開催

修了生たちがボランティアサークル「よっしゃあ！」を結成し、公民館事業をサポート

子ども向け講座「わくわく学級」の企画運営に参画
※公民館職員との打ち合わせでは、わくわく学級の企画のための情報収集や資料館等の見学にも意欲的である。



継続・充実のためのポイント

継続のコツは…？

企画段階からの参画により「やらされている感覚」が「自分たちでやっている感覚」に変わった。

「気楽に楽しく」「出られる時に出来る人が」の考え方が、会員の負担感をなくし、やる気につながっている。

リーダーや活動の核になっている人たちの人間性（温かさ・前向きさ・積極性）

予算は？

基本的になし

連携は？

活動の広がりの中で、地域の小学校から「総合的な学習の時間」の支援を依頼されている。

課題克服の方法は？

子ども向けの公民館講座の課題

- ① 講座のパターン化
- ② スタッフ不足
- ③ 予算削減

「よっしゃあ！」の皆さんの参画

- 講座の幅が広がり、子どもたちにより豊かな体験活動・ふれあい学習の場を提供。
- 「よっしゃあ」のスタッフをはじめ、多くの地域の方が公民館に足を運び、子どもたちにかかわってくれている。
- 地域の隠れた人材の発掘やグループ内の事前学習によって、外部講師にたよらずに講座を運営することにより、講座の費用の削減にもつながっている。

活動例

わくわく学級

【ねらい】 体験を通して楽しみながら学習し、子どもと大人、子ども同士がふれあい、交流する。

【場 所】 栃木市国府地区公民館

【内 容】 講座一覧の通り



手作り豆腐づくり



しめ縄づくりに挑戦

〈国府地区わくわく学級〉

平成18年度 国府地区わくわく学級講座 (少年少女学級講座) 年間予定

いろいろなことにチャレンジしよう!!

回	日時	内容
1	防犯のお話 7月27日(木) 14:00~18:00 会場 国府地区公民館	楽しい、楽しい夏休み!でも、ちょっと怖かった! 今回は、そんな楽しい夏休みを安全・安心に過ごさなければ ないう。防犯グッズでの防犯を前こころ! 大切な夏だから、みんな参加してね!
2	豆腐づくり 8月19日(土) 9:00~11:00 会場 国府地区公民館	 おいしい、おいしい~豆腐ですよ!
7	そばづくり 1月20日(土) 9:00~11:00 会場 国府地区公民館	むかし、むかし、この国にそばととうもろこしがあった みんな、そばを食べていたそう さあ、みんな!オリジナルそばを作って、食べてみよう! わたしのそばが食べたいよ!
8	そば打ち 2月17日(土) 9:00~11:00 会場 国府地区公民館	「な、ね、の、ね、の、ね、のそばこもいらい るけれど、なんとも一番おいしいのは自分です つたそばでしょう!今年もやりますよ!そば打ち大会! みんなのそばをそばつたかな?太?細?長?短?

自主事業 (事前学習会他)

「わくわく学級」を円滑に実施するために、事前の情報収集や体験学習の進め方・準備・手順を会員相互に学びあい、交流を深める。

そば打ち・バームクーヘンづくり・そうり作り等の事前学習会を実施。10月の「福島県：奥会津地方歴史民俗資料館」見学では、『そうりづくり』の体験講座に参加し、会員同士の交流を深めた。



公民館まつり他のサポート

- 毎年11月~12月にかけて実施する公民館最大のイベント公民館まつりの運営に参画
- 展示の部・園芸の部・体験、交流の部の様々な地域の参加者のサポートを実施

大人と子どものすがた

子どもは…



子どもたちは、公民館講座をきっかけに顔見知りが増え、地域でのあいさつや学校での交流の輪も広がっている。

公民館に足を運ぶ子どもたちの姿が以前に比べて大変多くなり、「公民館が元気になった」との声が聞こえてくる。

大人は…



企画の段階からの参画によって、より自主的積極的な活動が展開されるようになっている。

子ども向け講座の企画運営を積極的に進めることで、地域の子供たちにかかわる場や豊かな体験活動を企画する場が広がっている。子どもの体験活動を計画するために、施設見学をしたり情報収集したりする会員の姿が見られる。

「よっしゃあ!」の会員の中には、学校支援ボランティアの研修を受講し、学校の教育活動にもかかわる人もいる。

大人も活動を楽しみながら、小学校区で子どもをはぐくむ

東っ子ふれあいスクール実行委員会（塩谷町：船生東小学校区）

スタッフ構成

東っ子ふれあいスクール実行委員会	29名
船生東小学校保護者	6名
地域住民	16名
船生東小学校職員	3名
行政関係者	1名
事務局（塩谷町生涯学習課）	3名

活動を支援するサポーター
29人中19名

主な活動

- (1) 東っ子ふれあいスクール実行委員会の開催（年3回）
運営方法・活動内容・活動日・改善策など、企画運営に関する協議を行っている。
- (2) 東っ子ふれあいスクールの実施
毎週水曜日の放課後（ただし、月1回の一斉下校の日のはのぞく）に、子どもたちの自由な遊びが展開されるよう、サポーターが支援している。

立ち上げの経緯

平成15年度に栃木県の「家庭と地域の教育力活性化事業（塩谷ふれあいプロジェクト事業）」としてスタートし、プロジェクトリーダー（企画立案者&活動チーフ）とサポーター（活動当日の支援者）を含む地域代表による運営委員会を組織して活動を展開。

翌16年度から塩谷町単独事業として実施。その際、プロジェクトリーダーを廃止し、サポーターを中心とした実行委員会に改組し、継続して実施中。

継続・充実のためのポイント

無理をしない

サポーターの負担を軽くするため、実施回数も毎週水曜日から、学校の一斉下校の日に合わせて月1回の休みを設けた。

また、当番や輪番制をなくし、参加できるときに協力する体制とし、サポーターが少ない時には、活動場所を限定し少人数でも目が届くようにするなど息の長い活動になるよう工夫した。

連携を密に

年3回全体の実行委員会をもち、サポーター・行政・学校のそれぞれの立場からの思いや考えを持ち寄り、協議するとともに、連絡網を確立し、サポーター・行政・学校の連絡を取り合った。

地域の協力

例えば…

- * ぼうじぼ（わら鉄砲）：老人会の協力
- * クリスマスコンサート：演奏者の協力
- * 各種活動への材料の提供 など、地域の多くの方々からの協力を得ている。

気持ちを大切に

サポーターとして活動を支えてくれている人たちの気持ちを大切に、その気持ちに対して、年度末に町から感謝状を贈呈した。



活動例



自由遊び

活動の基本は、自由遊び。校庭、体育館、図工室を活動場所とし、子どもたちが思い思いの遊びを行う。

サポーターは安全に配慮しながら、一緒に活動をしている。



実行委員会が企画

- 7月 七夕かざり
- 10月 ぼうじぼ作り
- 12月 クリスマスコンサート
- 1月 新春演芸会



※季節の地域行事や、スタッフの特技等を生かしたイベントを実行委員会で企画し、年間4回程度実施。その際、地域の老人会等にも協力をあおぎ、材料の提供や活動の指導を行ってらっている。

子どもたちが企画

3月…卒業生を送る会



※毎年、5年生が中心となって3月最後のふれあいスクールで「卒業生を送る会」を実施し、企画から運営まで、すべて子どもたちが行っている。

平成17年度は、レクリエーション大会を実施した。



大人と子どものすがた

大人は・・・

- ・地域の子供への関心が高まり、地域や学校の行事に積極的に参加するようになった。
- ・子どもたちの様子を注意深く見るようになり、子どもたちとの関わり方をサポーター同士で話し合い、考えるようになった。
- ・子どもたちの安全確保だけでなく、子どもたちとのふれあいを楽しみに参加するようになった。



サポーターと子どもたちが顔見知りの関係になり、地域でのあいさつが増すとともに、絆が深まった。

子どもは・・・

- ・遊具がなくても、工夫して活動を楽しめるようになった。
- ・活動の中で起こる問題を、子ども自身で解決できるようになった。
- ・得意な活動で、学年に限らずリーダーとなる子どもが育ってきた。
- ・子どもたちの思いやりの心も育ってきた。

NPOが中心となって、子どもたちの「笑顔」を！

高根沢町障害児者生活支援センターすまいる（高根沢町）

スタッフ構成

NPO職員 6名

主な活動

- (1) 放課後・休日・長期休暇における就学児デイサービス事業
* 就学している障害児対象のデイサービス（町単独事業）
- (2) 障害児者とその家族の相談窓口となる相談支援事業



立ち上げの経緯

【実態】

就学している障害児の放課後支援や、余暇活動の場がない。
保護者の介護疲れの軽減や就労支援を目的とした機関がない。



【思い】

障害のある子が、地域の子どもたちとの交流を通して、大人になった時に“〇〇さん”と呼び合える地域をつくっていきたい。



「きのこのもり」内に、高根沢町障害児者生活支援センター「すまいる」を開設。
平成16年4月より就学児デイサービス事業・相談支援事業を開始。

《きのこのもり》とは？



児童館・学童保育・障害児者支援センターの3つの機能が併設された複合施設。
放課後になると、児童館に遊びに来た子ども、学童保育の子ども、就学児デイサービスの子供たちと一緒に、同じ空間で遊んでいる姿が見られる。

継続・充実のためのポイント

家庭・学校との連携

- ・学校との連絡を密にし、日常の活動での利用者の変化や長期休暇における活動の様子を伝えている。
- ・送迎時、学校の先生から利用者の状況を聞き、活動がスムーズに行えるようにし、保護者には連絡帳を活用して、当日の様子を伝えている。
- ・保護者、学校とのつながりを大切にし、保護者、学校からの協力を得ている。また、情報を共有することで利用者が生活しやすい環境をつくっている。

児童館・学童保育・地域との連携

- ・きのこのもりでは3つの施設に利用者の様子を伝え、共通理解を図っている。
- ・すまいる救急安心カードを作成し、緊急時に対応している。
- ・小中学校での総合学習に職員を派遣し、障害について理解促進に努めている。
- ・各種イベントの事業説明やパンフレットを学校や地域に配布している。

活動例

常時活動

①就学児デイサービス事業

- ・放課後・土日・祝日・長期休暇における学童保育
- ・学校まで迎えに行く送迎サービス
(送迎・おやつ代込みで1回300円)
- ・外遊び、創作活動、音楽活動、誕生会等の活動



②相談支援事業

障害のある人も住み慣れた地域で安心して生活ができるよう、身近な相談窓口として、本人と家族の支援を行っている。(電話・来所・訪問等で相談)

※就学児デイサービス事業と相談支援事業が同一の場所で行われているため、就学児デイサービスを利用しながら相談もできるのが「すまいる」の特長になっている。
利用対象者が小中高生のため、長い期間継続した支援ができる。

イベントの実施

- * キリンビール工場見学、じゃがいも・さつまいも掘り、クリスマス会

イベントへの参加

- * 高根沢町おもちゃ図書館との合同企画
ウェンディ那須への一泊旅行、いちご狩り、こども総合科学館見学等
- * 社会福祉協議会との連携
サマーボランティア講習生との流しそうめんやスイカ割り

「すまいる新聞」の発行

〈発行回数〉毎月1回の発行

〈目的〉子どもたちの様子を多くの人に知ってもらうこと

子どもたちを知ってもらうことは、地域で安心して生活するための第一歩である

〈内容〉子どもたちの普段の活動・イベントの様子・情報提供・県内の障害に関する各種研修の紹介など

〈配布先〉町内の保育園・小学校・中学校および各機関

大人と子どものすがた

来館者（大人や幼児）や学童保育の子どもたちとのふれあいを通して、社会性を身に付けています。

障害のある子とない子が同じ空間で遊んだり、活動をしたりすることで、お互いのことを認めるようになりました。



養護学校や特別支援学級など、様々な子どもたちが通ってくるので、保護者間での情報交換や交流ができるようになりました。